

Inter BEE 2020で 訴えるメッセージ

Inter BEE 2020は、11月18日(水)～20日(金)の3日間、オンラインで開催される。

ここで訴えるメッセージは何か。本誌編集部がフォーカスしたいテーマを特集。

また、ベンダーからのメッセージも用意した。

【テーマ】

動けるか放送業界／ラジコが目指すIP基盤の変革／米ATSC3.0を深読みする／Inter BEE「IP PAVILION」デモ展示概要
／MBSエンジニア内製「クラウドによるJNN本部素材共有システム」／AI音声認識を複数乗りこなすTBS開発の文字起こし
「もじこ」／広島テレビ放送、ドコモ、AGCが「ガラスアンテナ」で5Gエリア化／ソフトバンク、テレ朝が5G・AIを使ったクラウド
プロダクションに成功／TBS、IJJ、NECがローカル5G活用の災害時同時配信を実証実験／4K・HDR・BT2020のCGテロップ
と映像との調和がこれからの課題／行政の伝達ニーズを支える琉球朝日放送のデータ放送「テレビにはまだ力がある!」／
道内22自治体が北海道文化放送の地デジ広報「対面調査で見えてきた住民と自治体の意識」

【技術提案】

パナソニック提案 ● 「KAIROS」連携でリモート映像制作

ラムダシステムズのテロップシステム提案 ● 新製品の汎用基板と「仮想化ソリューション」で業界に一石
NTTe-Sports開設「eXeField Akiba」 ● 「NDI」を軸にしたフルIP制作・配信が目指すeスポーツの未来

ライムライト・ネットワークス・ジャパン提案 ● プロ映像制作のTTR社にライブストリーミングシステムを導入

動けるか放送業界

文：吉井 勇・本誌編集部

やさしい表現ながら 根本問題を突く音教授の指摘

「コロナ危機で一足飛びに10年後が迫る大きな転換期」と、放送業界は話す。しかし、こう言いながらも、どことなく「これまでを踏襲して

いれば」というニオイもする。このあたりを上智大学新聞学科・音好宏教授は次のように寄稿する。

「ローカル民放局の経営環境の悪化が指摘されて久しい。特に、ネット上で動画配信サービスが普及するなかで、在京キー局がこ

ぞってVODサービスを本格化。視聴者はローカル局を飛び越えて、在京局の有力コンテンツにたどり着く環境が生まれつつある。ただ、ローカル民放局の危機感はマチマチだ。

地上民放局は、マクロ経済連動型の経営モデルである。日本経済がへたると、途端に